

原爆の惨禍忘れない

広島への原爆投下から6日で70年になるのを前に、広島出身で神戸在住の女性らでつくる「ヒロシマを語り継ぐ会」の主催する朗読会が5日、広島市中区上職町の広島女学院中学高等学校で開かれた。町を一瞬で地獄へと変えた原爆の被害を伝え、ひん死の重傷を負いながらも生き延びた学生や母親らの手記を読み上げ、平和への願いを新たにしたい。 (井上 駿)

語り継ぐ会は、広島県呉市出身で同校卒業生の浅海和子さん(67)＝神戸市東灘区＝が、戦後70年を機に、被爆者が高齢化する中で、記憶を伝えていこうと、ほかの同窓生に呼び掛けて結成。朗読には、同校出身者がいる朗読グループ「ことば工房」(岩佐光世主宰)が協力。一方、同校も生徒と教職員計350人が原爆で亡くなり、平和教育に力を入れている。

「助け起こそうにも、全身焼けて膨れ上がり、抱き上げられませんでした」

「お母さん、おばあさんと、それこそ大声で呼びながら、ついに息は切れませんでした」

この日、同窓生ら約70人が集まった会場で、同工房のメンバーが力のかもった声で、息子を失った母親らの証言を読み上げた。同校放送部も出演し、生き埋めになり、友人らの死に立ち会っ

神戸の女性ら 広島で被爆者の手記朗読会

た生徒の心情を朗読した。

同工房の服部和子さん(71)＝神戸市北区＝は、「壮絶な地獄の中でも生きようとする心の強さが証言から伝わってきた」。

8日東灘でも開催

同校放送部の宮下有希さん(17)は「同年代が被爆した記録を読むことで、平和への願いがいつそう強くなった」と話していた。同会は8日午前10時半から、神戸市東灘区の平生記念館で住吉中放送部などが出演する朗読会を開く。無料。浅海さん ☎ 0800・1515・5982



来場者の前であいさつするヒロシマを語り継ぐ会の浅海和子さん(中央)＝広島女学院中学高等学校